

はしど

平成28年10月4日
学校便り 第6号
練馬区立橋戸小学校
校長 河崎 晃二

<http://www.hashido-e.nerima-kyo.ed.jp/>

☆学校教育目標 考える子・思いやりのある子・たくましい子

武石移動教室で学んだこと

校長 河崎 晃二

5年生と二泊三日の武石移動教室に行ってきました。「自然、友情、感謝」をテーマに、実にたくさんのことを学んできました。知的好奇心の高い子供たちは、様々な活動を通して、これまでの自分の知識や考え方や物の見方を深めてきました。

その一つが「乳牛の命と人間の命」についてです。二日目の鷹山ファミリー牧場において、乳牛の乳搾り体験と薪を燃やして飯ごうでご飯を炊き、カレーを調理する経験をしました。それらの体験の前に、指導員の方から牧場にいる動物についてのお話をいただきました。その話は子供たちに強烈な印象を残しました。

「乳牛や鶏は人間が生きるために生きている。」「乳が絞れなくなると食肉となり命を終える。鶏も卵を産める間の命である。」また、「隣の小屋にいる子牛は肉食用で、2、3年経つと大人の牛になって、それまでの命である。」そして「人間は自分の命を全うすることができる。」という一言でした。「私たちは他の命のお陰で自分の命を全うできること」特に、子牛の可愛らしさを目の当たりにすると、この言葉は、命をあらためて深く考える機会となりました。

「いただきます」の挨拶が「命をいただく」

ということを知っている児童は大勢います。「命は大切に!」「自然を守ろう」という言葉はよく耳にしたり、口にしたりしますが、命に直接触れる体験学習を通して、今までの命についての考え方がより深くなったと実感しました。話を聞く5年生の視線は、命をしっかりと見つめ考えている姿でした。

カレーづくりでは、大人はいっさい手伝いません。指導員の方の話をよく聞いて、自分に任された仕事を責任をもって成し遂げないと、グループのメンバーに迷惑をかけるだけでなく、ご飯やカレーはできあがりません。限られた時間の中でどのグループもおいしいカレーライスを食べることができました。また、後片付けにおいてもみんなで協力して食器を洗い、ごみを片付けていました。

日頃、何気なく食べている食事について、じっくりと考えさせられる一日でした。



